西宮市酒蔵地区における震災後の変容とその特性

THE CHARACTERISTIC OF THE URBAN CHANGE AFTER THE GREAT HANSHIN EARTHQUAKE IN THE SAKE BREWERY DISTRICT, NISHINOMIYA CITY

福原那津子 — *1 越澤 明 — *2

Natsuko FUKUHARA — *1 Akira KOSHIZAWA — *2

キーワード:

酒蔵地区, 地場産業, 土地利用, 阪神・淡路大震災

Keywords:

Sake brewery district, A domestic industry, Land-use, The Great Hanshin Earthquake

Nishinomiya has been known as one of the great *sake* brewery districts in Japan. The brewery there, however, failed because of the decline of the amount of sake consumption in the last of Syowa period. So, the land for brewery have been converted to a condominium or a large-scale retail store. The Great Hanshin Earthquake, 1995, has accelerated such a land-use change because of brewers' giving up business. This study investigates the actual situation, understands how it effects on the town, and considers what is needed for the city supported by a domestic industry today.

1. 研究の意義と方法

西宮市の宮水・酒蔵地区^{註1)}は、日本でも有数の清酒生産地として発展してきた。しかし、昭和40年代からの消費量低下を原因として酒造業が長期停滞の状況にあった。そのため酒造業関連用地の用途転換が発生していたが、平成7年の阪神・淡路大震災によりその傾向に拍車がかかった。現在、廃業・酒蔵の閉鎖に追いやられた酒造業用地が大規模小

売店舗や集合住宅に転換されるケースが急増している。

かつて形成されていた酒蔵のまちなみが変わりつつある今、この変化は市街地にどのような影響を及ぼしているのだろうか。本研究では、地場産業を中心とした地域での土地利用の変化が、震災によって加速されている状況を分析し、それに対する施策と地域での取り組みを追いながら、地場産業に支えられたまちの地域活性化への課題を明らかにする。

なお本研究は、各年代住宅地図、行政資料及び西宮市都市計画部へのヒアリングにより開発状況の調査・分析を進め、それに基づき今後の動向と対応についての考察を行う。

2. 酒蔵地区の概要

2-1. 宮水・酒蔵地区の成り立ち

西宮の酒造業の起源は、室町時代の文献に見る「西宮の旨酒」にはじまる。幕末には、宮水の発見、寒造りの新しい灘流酒造仕込みの技術革新と水車精米、樽廻船の出港地という恵まれた立地条件も相まって、今津と並ぶ灘の酒の中心地として位置付けられてきた。

明治20年代より酒造経営の近代化が始まり、最盛期頃の明治31年には、西宮郷と今津郷を合わせて酒造家は31家、108蔵をこぞえた。しかし、大正期には経営の合理化により有力酒造家への集中や会社組織への移行等で、蔵数の減少が見られるようになった。

第2次世界大戦により西宮市は大空襲を受けたが、酒蔵地区も戦災により壊滅状態となった。一部、焼失を免れた煉瓦造や木造の酒蔵はその後使用されることとなった。

図1. 昭和59年酒造業関連用地及び歴史的酒蔵の分布状況

*「酒蔵地区景観整備計画」(西宮市、昭和59年)をもとに筆者作成。「景観整備計画」では、対象の酒蔵を歴史的評価から相対的に4つに分類しているが、筆者はそれをもとに歴史的酒蔵A及びBの2つに分類した。

歴史的酒蔵A: 明治・大正から昭和20年頃までに建てられた、重厚な雰囲気を持つ優良な酒蔵。

歴史的酒蔵B: Aに比べ重厚さに欠けるが、酒蔵としての雰囲気は持つもの。

*1 北海道大学大学院工学研究科 大学院生
(〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目)

*2 北海道大学大学院工学研究科 教授・工博

*1 Graduate Student, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ.

*2 Prof., Graduate School of Eng., Hokkaido Univ., Dr. Eng.

2-2. 酒造業停滞に伴う土地利用転換

その後、近代化に伴う設備更新によって既存酒蔵が使われなくなったり、消費者の日本酒離れにより清酒生産が停滞するなど、酒造業は新たな対応を迫られる状況にあった。酒造工場跡地の分譲マンション等への用途転換の傾向が、昭和40年代以降から見られるようになっていた。

この頃から、煉瓦造や木造蔵を始めとした歴史的な酒蔵の減少が目立つようになり、その景観資源としての重要性を

写真1. 旧辰馬喜十郎住宅^{注2)}

を見直すためにも、昭和59年に「酒蔵地区景観整備計画」が市によって行われた。当時の酒蔵地区に残存する、歴史的酒蔵を含めた景観資源の抽出を行っている(図1)。

また、地区内には県及び市指定の文化財である旧辰馬喜十郎住宅(写真1)があり、煉瓦造の酒蔵と合わせて、白鹿記念酒造博物館として当時から保存再生されていた。このように、酒蔵を始めとする歴史的建物への意識の高さや、企業の努力が見られた地域である。

3. 震災後の土地利用転換

第2次世界大戦の空襲による焼失や、その後の設備更新により、皆無に近いながらもわずかに残っていた木造蔵は、震災によって壊滅的な被害を受けた。また、建物被害は軽微であったが、生産設備に大きな被害を受け、低稼働を強いられ

た会社も多くあった。現在の酒造業の稼働状況は概ね震災前の水準に回復したといえるが、事業の縮小や廃業を強いられた企業も少なくない^{注3)}。実際、平成7年度20社あったものが13年度では15社に減っている^{注4)}。

震災後の廃業や酒蔵の閉鎖により、酒造関連用地が大規模小売店舗等商業施設や集合住宅への土地利用転換が急増している(表1、図2)。比較的規制の緩い準工業地域であることに加え^{注5)}、工場跡地などの大きな区画・広い敷地という比較的主とまった土地に建設されるため、集合住宅は大規模かつ高層といった傾向にある。また、大規模小売店舗については、特に平成11年以降の開発が著しい。

□集合住宅

震災前に4件、震災以降に15件であることからその急増は明らかである。震災直後の平成7年度及び8年度に増加し、その後また平成11年度以降に集中している。これは、西宮市内に見られる傾向と同様に、震災後の復興過程においての開発だけでなく、その後の土地の流動や現在の情勢も大きな要因と考えられる^{注6)}。

□大規模小売店舗等商業施設

集合住宅と同様、平成11年以降の急増は商業施設についてもいえる。特に平成9年度から14年度の5年間に急増している。これは、前述の情勢に加えて「大規模小売店舗立地法^{注7)}」(平成12年6月施行)に移行する前のかけこみ申請といった意味合いが強いといえる。

従前用途別では、酒造会社の他に当地区に多く存在する工業関連企業の所有地やその他企業の社宅・保養所も見られる。これは、景気の低迷・産業構造の変化により工場跡地や社宅跡地等の大規模敷地の有効利用によるところが大

表1. 酒蔵地区における土地利用転換状況一覧

*各年代住宅地図及び西宮市行政資料をもとに作成。

No.	事業場所	確認年度	現況用途	名称	従前用途	開発面積(m ²)	延床面積(m ²)	階数	用途地域	高度地区
①	浜町34-1,34-2	S63	社宅	—	社宅(酒造会社)	1,982	3,572	7	準工業地域	指定なし
②	東町2丁目1-1	H5	集合住宅(分譲)	—	工場	2,362	5,220	10		
③	建石町15-1	H7	—	—	酒造会社倉庫	3,381	6,787	10		
④	東町2丁目21-2	H7	—	—	工場(工業会社数社)	1,440	3,093	7		
⑤	東町2丁目50-3	H7	—	—	倉庫(川崎製鉄㈱)	6,200	12,716	13		
⑥	東町1丁目117	H7	—	—	工場(川崎製鉄㈱)	9,042	18,486	11		
⑦	東町2丁目42-1	H8	—	—	駐車場(川崎製鉄㈱)	2,124	4,234	11		
⑧	建石町24-1	H11	—	—	営業所、寮	2,163	4,597	10		
⑨	浜町71	H11	—	—	酒造会社倉庫	2,386	5,765	9		
⑩	泉町5-4	H12	—	—	工場	9,788	26,093	15		
⑪	浜町20、24-2	H13	—	—	酒造会社工場	6,900	17,000	15		
⑫	宮前町12	H5	マンションギャラリー	—	酒造会社工場	4,556	—	—	1住居	第4種
⑬	今津巽町144-1	H5	集合住宅(分譲)	—	酒造会社工場	2,362	4,193	6		第5種
⑭	建石町40	H8	—	—	酒造会社倉庫	24,385	55,238	15		第4種
⑮	建石町40	H8	—	—	戸建住宅	1,193	2,529	5	近商・1住居	第4種/なし
⑯	浜脇町12	H10	—	—	酒造会社工場	2,705	6,972	15		第4種/なし
⑰	宮前町45-1	H11	—	—	駐車場—文化住宅	919	2,063	5	1住居	第4種
⑱	前浜町209-1	H11	—	—	社宅	1,383	3,574	7		
⑲	泉町69	H11	—	—	保養所	2,467	6,992	7	1中高	第2種
⑲	上葭原町17-1,14-3,14-5	H11	—	—	社宅	2,238	3,600	5		
No.	事業場所	確認年度	現況用途	名称	従前用途	開発面積(m ²)	延床面積(m ²)	駐車台数	用途地域	高度地区
a	東町1丁目	H6	事業所	コープこうべ購入センター	酒造会社工場	7,013	4,709	—	準工業地域	指定なし
b	浜町69-1、70	H8	物販店	ユニクロ	白鹿博物館	2,444	746	47		
c	今津社前町35	H8	物販店	コーナン	酒造会社倉庫	4,650	2,181	115		
d	久保町45-1	H10	工場・物販店	アンリ・シャルバンティエ	宮水井戸場	2,646	1,893	10		
e	東町1丁目110-1、110-3	H11,H12	物販店・飲食店	ミドリ電化、スシロー、他	酒造会社工場	6,751	4,762	49		
f	浜松原町19-3、19-4	H11	物販店	関西スーパー	酒造会社工場	5,624	3,209	111		
g	浜松原町21-1、21-2	H11	物販店	嶺山陽マルナカ	社宅、工場(川崎製鉄)	15,310	21,984	435		
h	建石町1	H12	物販店	コーナン	酒造会社工場	7,627	9,088	254		
i	建石町91-1一部	H12	物販店・飲食店	ブックオフ、焼肉一番カルビ、他	酒造会社工場	5,287	1,874	111		
j	鞍掛町56、57	H12	物販店・飲食店	白鹿クラシックス	戸建住宅	4,710	299	24		
k	今津出在家町57	H13	物販店・飲食店他	やまとの湯、くら寿司、他	社宅	9,490	3,289	182		
l	津門 往江町	H13	飲食店	中国料理バーミヤン	テニスコート(関西電力㈱)—変電所	950	242	22		

きいといえる。

土地所有者は、分譲集合住宅では土地処分による収入を、賃貸集合住宅及び商業施設では事業者からの収入を得ると一般的に考えられる。当地区では、酒造関連用地を処分あ

るいは借地として提供しているところもあれば、既存酒蔵を再建しているところもあり、酒造業停滞にある企業の苦勞と努力を物語っているといえる（図3、写真2及び3）。

図2. 酒蔵地区における土地利用転換状況（上から平成6年、平成9年、平成14年）

* 震災前の平成6年、震災後の平成9年、平成14年について住宅地図をもとに作成。また、転換状況を見るため昭和59年の酒造業関連用地に重ね合わせた。図中の番号は表1の開発物件に対応。⑬、⑭は区域外ではあるが、関連として採り上げた。

写真6. 地域資源を活かしたイベント^{注10)}

4-3. 今後の開発への対応

当地区は、準工業地域で高度地区の指定もない比較的規制の緩い地域にあるため、多様な用途の建築物や大規模・高層建築物の開発が今後も予想される。また、これらの開発は情勢変化や各酒造会社の意向にもよるので、土地利用の更新はやむを得ない面もあり、建物の形態制限といった法規制だけにとどまらず、産業振興も含めた地域のまちづくりの考えが必要だといえる。

5. まとめとして

本研究は、以下のようにまとめられる。

- ①西宮市酒蔵地区において震災後特にみられる土地利用転換は、震災後の市全体での住宅需要の高まりや、酒造業者の事業縮小・廃業による大規模な土地の有効利用、また産業構造の変化による土地の流動といった要因によるものといえる。
- ②工場用地が多数存在し、規制も比較的緩い地区であるため、土地の有効利用の点から今後も同様の開発が進む可能性が高い。
- ③震災後、地域を活性化させようとする酒造会社や地元住民の努力が見られ、その地域振興への貢献は大きい。
- ④土地利用転換に伴うまちなみ変化に対して、行政による先立った具体策は今のところなされていない。

表2. 震災後の景観形成助成物件一覧

□被災した都市景観形成建築物等の修復

年度	事業名	建築名称	助成額(千円)	修復内容	摘要
H7	都市景観形成事業	星和大学旧宣教師館	2,420	屋根・壁補修	都市景観形成建築物
		松本道子邸	5,000	構造体及び内・外観修復	
		倉戸三郎邸	5,000	構造体及び内・外観修復	
		倉敷濱子邸	5,000	構造体及び内・外観修復	
8	歴史的建造物修理費助成事業	辰間本家酒造本蔵(酒蔵館)	5,000	構造体修復旧	
		浄橋寺庫裡及び書院	4,027	屋根・壁補修	
9	歴史的建造物修理費助成事業	西宮神社六英堂	5,000	構造体及び内・外観修復	都市景観形成建築物
	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	芝辻 崇邸	2,041	屋根・壁補修	
		岡本紀士夫邸	3,500	母屋建替え	
10	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	今西永児邸	728	屋根葺替え	都市景観形成建築物

□景観デザイン誘導による街並み景観の形成

年度	事業名	施設名称	助成額(千円)	整備内容	摘要
H9	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	大関(株)宮水井戸場	1,500	井戸場の庭園化	
		辰馬本家酒造(株)宮水井戸場	1,500	井戸場の庭園化	
		白鷹(株)宮水井戸場	1,500	井戸場の庭園化	
		大関(株)恒和蔵新築	3,500	伝統的な意匠を継承した酒蔵再建	
		大関(株)恒和蔵外構整備	1,500	和風の塀と道路沿い緑化	
		本野田酒造(株)外構整備	1,500	道路沿い緑化	
H10	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	辰馬本家酒造(株)食品事務所改築	3,500	伝統的な意匠を継承した事務所	アンリシャルバンティエ事務所・工事
		辰馬本家酒造(株)酒蔵館外構整備	1,500	和風の塀と道路沿い緑化	
		多間酒蔵(株)多間ビル外構整備	1,500	塀と道路沿い緑化	
		辰馬本家酒造(株)本社通用門修理	1,282	和風塀の修理と道路沿い前庭整備	
		(株)スズケン西宮支店館外構整備	1,500	道路沿い緑化	
		八馬啓氏所有地の外構整備	982	塀と道路沿い緑化	
H11	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	辰馬本家酒造(株)新社屋外構整備	1,500	塀と道路沿い緑化	白鹿クラシックス(飲食店・物販店)
H12	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	東海道本線沿線修景緑化(安井地区)	483	修景緑化	
		辰馬本家酒造(株)既存蔵改造再生	3,500	伝統的な意匠を活かした店舗に再建	
H13	景観ルネサンス・まちなみ保全事業	辰馬本家酒造(株)外構整備	1,500	塀と道路沿い緑化	白鹿緑水苑(飲食店)
		辰馬本家酒造(株)緑水苑新築	3,500	伝統的な意匠を継承した店舗	
		辰馬本家酒造(株)緑水苑外構整備	1,500	塀と道路沿い緑化	

昨今歴史的街並み保全の動きが見られて久しい。西宮市酒蔵地区は伝統的建造物に準ずる建物群ではなく、清酒生産地であり、また点在するため空間的にも難しい点が多い。しかし、酒造業という地場産業に支えられた当地区においては、従来の街並み保全にある、歴史的建物の外観保存や周辺開発物の形態規制とは違った新しい考えが必要だといえる。企業や地元住民による地域振興への努力を意義あるものとするためにも、「酒造り」という生産と文化に対して行政が支援すべき地区なのではないだろうか。まちなみは地域の歴史の集積であり、そこで営まれてきた産業と文化を継承することが、真の地域再生につながると考える。

謝辞

本研究を進めるにあたり、資料提供からヒアリングに関するアドバイスをいただいた、西宮市都市計画部の猿渡彬順部長、都市政策課の岩田郁子氏、まちづくり株式会社コー・プランの皆様に深く感謝の意を表します。

注釈

注1)「宮水・酒蔵地区」とは灘五郷の内、西宮郷から今津郷にかけて酒造業が広がる地域一帯を指し、その区域界は「酒蔵地区景観整備計画(以下、景観整備計画)」(西宮市、昭和59年)に基づく。総面積2.43k㎡。

注2) 出展：西宮市ホームページ「指定文化財」

<http://www.nishi.or.jp/~kyodo/sitei/tatu-uma.htm>

注3) 震災後本社は存続しているものの、西宮工場は閉鎖したという企業も多く見られる。特に、中小企業の中では他企業との提携や販売業務のみへの事業転換、廃業に迫いやられたところも少なくはない。昭和期の灘の清酒が全国的なブランドとして生産量もピークを迎えていた頃、本氏が県外にある酒造業が、「灘ブランド」を求めてこの地に進出する例も見られた。しかし、本氏は存続するものの、西宮工場は閉鎖・撤退した企業がほとんどである。

*「震災復興6年の総括」及び西宮市行政資料より作成

注4) 工業統計調査(平成11年度、平成13年度版)による。
 注5) 西宮市では、昭和45年に住居専用地域への指定に始まり、その後昭和58年には、第1種住居専用地域を除く住居系用途地域全域に用途地域と連動した高度地区の指定を行った。また、平成8年には都市の防災構造強化のため、国道2号沿いの防火地域の指定と合わせて、建築物の高さの最低限度を定めた(現在の第6種高度地区)。

震災以降に中高層住宅の建設が増加する中、高度地区制限と現況の土地利用に乖離が見られる地域を中心に環境の保全に向けて住民以降を反映させながら、平成10年4月に大幅な高度地区見直しを行った。

図4. 形態規制図(平成15年4月現在)

*「阪神都市計画(西宮市)市街化区域図・地域・地区図」西宮市, 2003年より

注6) 震災により市内の住宅地は甚大な被害を受け、生活基盤となる住宅の復興は緊急課題であった。公的住宅だけでなく民間住宅の供給も促進させる必要があることから、市は平成7年8月に「開発事業に関する指導要綱」の規制を緩和した。その後各地で開発が急増し、中でも幹線道路沿いや駅周辺で物件が集中し、準工業地域等の形態規制の比較的緩い地域では大規模・高層建築の傾向が見られる。

これは、優遇税制・低金利によって共同住宅需要が活性化されたことや、景気の低迷・産業構造の変化により工場跡地や宅跡地、農地等の大規模敷地の有効利用が要因として考えられる。震災需要をあてこんだ供給過剰の状態といえ、実際、震災による滅失戸数を上回る数の住宅が建設されている。神戸・大阪間に位置する利便性のよさと、以前から良好な文教住宅地としての人気で需要が高かった上に、規制緩和後の大量供給によって、より安価となったことで西宮市のマンション需要がさらに伸びたといえる。

注7) 商業調整を目的とした大規模小売店舗法が廃止されることになり、地域環境保護を目的とする大規模小売店舗立地法に移行することとなった。本法律では、店舗面積や営業時間は関係なく、二十四時間営業の超大型店出店も可能になる。

注8) かつて蔵元が西宮市に対し、前市役所庁舎や前市立図書館、更に越水浄水場施設を寄付したり、自ら学校や美術館を建設するなどの経緯がある。

注9) 大震災からの早期復興のための各般の取組みを補完し、被災者の救済及び自立支援並びに被災地域の総合的な復興対策を長期・安定的、機動的に進め、災害により疲弊

した被災地域を魅力ある地域に再生させることを目的とし、平成7年に財団法人阪神・淡路大震災復興基金が兵庫県及び神戸市により設立された。運用財産として、兵庫県及び神戸市が地方債を発行して8,800億円を基金に無利子で貸し付けているが、その地方債に係る利払いの一定割合については、国からの地方交付税により措置されている。基金事業では、住宅、生活、産業、教育、その他と多岐の分野に渡って復興支援が行われている。設立当初28事業2,345億円の計画でスタートしたが、被災者の要望等を踏まえて、事業の追加・拡充を行った結果、現在では113事業3,589億円の事業計画となっている。

景観ルネサンス・まちなみ保全事業(兵庫県都市計画課所管)は、この復興基金事業の一つとして位置づけられている。平成9年度から、大震災で被災した歴史的・文化的に重要なまちなみや、まちのシンボリック建築物などの保全とまちなみの再生を支援するものに適用されている。また、平成11年度からは「伝えたいふるさとの景観」等に選定された景観資源の外観修復等及び外構植栽についても補助事業が行われている。歴史的建造物修理費助成事業(兵庫県教育委員会・文化財所管)も同様に復興基金事業の一つである。歴史的建造物及び文化的建造物の災害復旧事業が補助対象となっており、事業期間は平成7年度から16年度までとされている。

このように、西宮市は震災後の財政難から、復興基金による助成事業を積極的に活用し、酒蔵地区を重点的に、助成対象者への制度紹介や申請の取次ぎなどによる支援を行った。

これらとは別に、平成2年度から西宮市が単独に行っている西宮市都市景観形成助成事業により、景観形成建築物等指定物件の修復保全への財政的支援も行われている。

注10) 出展: 西宮商工会議所ホームページ

<http://www.n-cci.or.jp/7sakagura.htm>

参考文献

- 1) 西宮市: 西宮市史 全八巻, 1967年
- 2) 八木哲浩・石田善人: 兵庫県の歴史, 1971年
- 3) 武藤誠・有坂隆道編: 西宮あれこれ, 1979年
- 4) 西宮市: 酒蔵地区景観整備計画, 1984年
- 5) (株)ゼンリン: 住宅地図西宮市南部1988、1994、1997、2002年度版
- 6) 神戸大学震災研究会編: 神戸の復興を求めて, 1997年
- 7) 西宮市: 景観ルネサンス・まちなみ保全事業補助金交付要綱, 1997年
- 8) 京極迪宏: 震災復興が教えるまちづくりの将来, 1998年
- 9) 神戸東部市民まちづくり支援ネットワーク編: 市民まちづくりブックレット①, 1999年
- 10) 西宮市都市計画部都市政策課: 西宮市都市計画ニュース, 2002年
- 11) 西宮市: 一阪神・淡路大震災一震災復興6年の総括, 2001年
- 12) 西宮市: にしのみや住宅マスタープラン<2002~2011>資料編, 2002年
- 13) 西宮市: 西宮市開発指導要綱等の変遷, 2002年
- 14) 震災復興誌編集委員会: 阪神・淡路大震災復興誌 第6巻, 2002年
- 15) 西宮市都市局都市計画部: 西宮市都市計画年報平成15年度版, 2003年
- 16) 西宮市: 阪神都市計画(西宮市)市街化区域図・地域・地区図, 2003年

[2004年4月19日原稿受理 2004年7月29日採用決定]